

真渡の新仏の埋め墓（石を上から下げる）

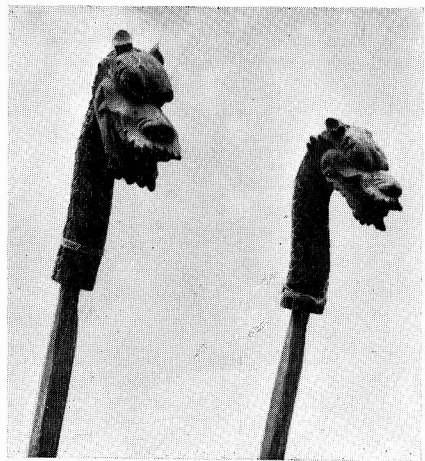
そして女たちは三十三観音の御詠歌をあげ、本田・十二所など、穴掘念仏踊のある村では念仏供養をやったこともある。

穴掘、棺かつぎは、六尺といって多くは村に順次当番がきまっている。白衣をまとって行なう。この六尺には穴場などで、必ず

酒と飯を供さなければならぬことになっている。

出棺の時、会葬者に大椀に酒を注いで出す。これを出立ちの酒という。婚礼のはわらし酒というが、冷酒を一杯ずつ飲む風習がある。

葬式の式次は世話人が呼びあげ、大体先頭に一家台といって提灯をもち、つぎに死花・六合・御花・玄水・灯明・松明・香炉・靈膳・位牌と近親者が棺に近く、次が御棺で、上にはひがさをおき、四角のふきながし、かんまきの布をつける。後には親類・婦人連中・村人をつくが、婦人は白布をかむり、えんのつなといって白い布をのべて、皆で持つ風などが残っている。施主、ごく近親者は上下か、かたびらな



葬送の電頭（安良田）